

■現在絶賛放送中の朝の連続テレビ小説『とと姉ちゃん』。生活総合雑誌『暮しの手帖』および出版元である暮しの手帖社の創業者・大橋鎮子と花森安治の雑誌出版の軌跡をモノグラフに、戦後をたくましく生き抜く人々の姿を描く希望の物語。花森安治をモデルにした登場人物・花山伊佐次は、唐沢寿明が演じるそうです。

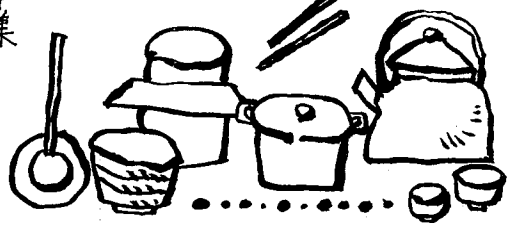
■そんなドラマの影響で、今改めて『暮しの手帖』初代編集長である花森安治に注目が集まっています。手に取りやすい文庫で、沢山の随筆を読むことが出来ます。ここでは、随筆集『暮しの眼鏡』の巻末に、『暮しの手帖』現編集長の松浦弥太郎が寄せた解説を一部紹介しましょう。

■「どんな時でも評論家で終わらないのが花森である。何かを叱咤した時必ずその先の方法なり、どうしたらよいかをヒントを与えてくれるのが、彼にあふれる誠実さである。わかりやすい言葉で、正しく生きるためのヒントを投げかけてくれる。それは、まず、「自分で考える」ということだ。」

■この世に生まれ、何を感ず、何を思い、何を考えるかは自分次第。本當の豊かさは、丁寧な暮らしてある。物事へのヒントのあわせ方を考えるだけで、違う世界が見えてくる……何かに追われるようにして過す日には、ちょっと立ち止まって、対話するように読んでみたい。そんな本たちです。

花森安治の随筆たち

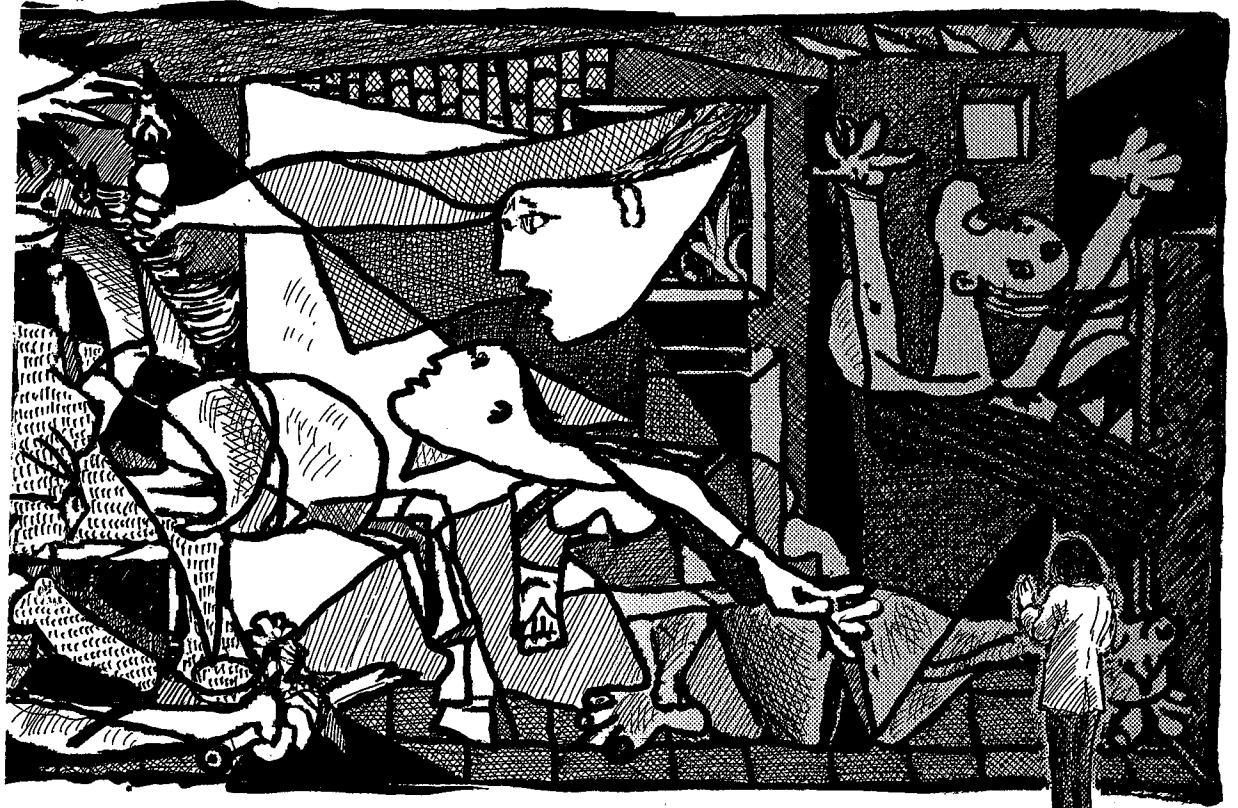
『逆立ちの世の中』 842円
 『暮しの眼鏡』 720円
 『風俗評』 670円
 (全て中公文庫)



■文芸『イヤシノウタ』吉本ばなな/新潮社 1,512円(4月27日発売予定)/みんなが飾らず無理せず、自分そのものを生きることができたら、世界はどんなところになるだろう。なんていうことのない日々、宿る奇跡のような瞬間、かけがえのない記憶。土地がもたらす力、自然とともに生きる意味。運命的な出会い。男女とは、愛とは? お金や欲望、不安に翻弄されずに生きるには? そして命と死を見つめる中で知った、この世界の神秘とは——。ほんとうの自分、を生きるための、81篇からなる人生の処方箋。

■ビジネス『ソニー・盛田昭夫、時代の才能を本気にさせたリーダー』森健二/ダイヤモンド社 2,376円(4月25日発売予定)/時代の才能を引き寄せ、77歳のイノベーションを実現してきたソニーは、世界の企業のロールモデルとなった。今、進むべき道を見失っている日本のビジネスマンに、この稀有な企業の歴史を振り返り、日本がソニーと盛田昭夫を持って意味と、成功と失敗のメカニズムとともに伝える。

■趣味『占星術夜話』鏡リュウジ/説話社 3,024円(4月27日発売予定)/学研『ムー』で連載されていた「占星術夜話」と「占星術秘話」が一冊の本になりました! 翻訳家として、また、西洋占星術の研究者として名をはせる著者ならではの、占星術をはじめとした、心理学、タロット、ハーブ、宗教、絵画、7インの語りも盛り込まれた60話の星をめぐる物語をどうぞ。



暗幕のゲルニカ 原田マハ

■泣き叫ぶ女、死んだ子供、いたはく馬、振り向く牡牛、力尽きて倒れる兵士。それは、禍々しいかに満ちた、絶望の画面。その絵画の名、〈ゲルニカ〉。

■1937年、パリ万博スペイン館に展示されるために制作されたそれは、縦・約350センチ、横・約780センチという巨大なキャンバスに繰り広げられた閃光叫喚の図。内戦真の渦中の故郷スペインで、バスク地方の小都市・ゲルニカを、反乱軍を支援していたナチス・ドイツの航空部隊が空爆した、その惨状を知ったピカソが描いた渾身の一作であり、美術史上も、とも物議を醸した反戦のシンボル。戦中、戦後と数奇な運命を辿り、1981年、ようやくスペインへ返還されたこの、各国の美術館はこぞって貸出を希望したが、所蔵先であるレナ・ソフィア芸術センターは全ての申し出を拒否。〈ゲルニカ〉は、文字通り、スペインの至宝となったのである。

■時はめぐり、2001年9月、ニューヨーク。少女時代〈ゲルニカ〉に魅せられ、生涯をピカソという芸術の巨人にささげるため、美術史を学んだハ神瑤子は今、ニューヨーク近代美術館のキュレーターとして働いている。 → 2面へ

HONON
 岡山店(ドレミの街5F) 10:00~20:00/電話 086-234-6006/7777 086-234-6003
 X-IV hselva@po.harenet.ne.jp / ホムレージ http://www.e-hon.ne.jp/SHOP72050
 西口店(泰運町商店街内) 9:30~16:30、日・月休/電話 086-250-4301
 ホムレージ http://www.e-hon.ne.jp/SHOP72059 7777 086-250-4316
 さんすて岡山店 8:00~20:00/電話 7777 086-803-2650 / X-IV pselva@po.harenet.ne.jp

価値
→ いつとも変わらないはずの朝、瑤子はマンハッタン南端にそびえるワールド・トレード・センターめがけ青空を突く切る旅客機の影を自撃する。それは、9.11と称されるアメリカ同時多発テロの瞬間であり、瑤子が愛する夫を永遠に失った瞬間でもあった。

「テロとの戦い」を掲げるアメリカ政府がアフガニスタン空爆に続きイラクへの軍事行動に踏み切ろうとした矢先、国連本部のロビーに餓死していた「ゲルニカ」のレプリカに、暗幕がかけられた。一体誰がそんなことを...? 一枚の暗幕に隠し切れるはずもない「ゲルニカ」のメッセージを胸に、瑤子は次の展覧会に向け、今だから誰も成し遂げたことのない、レイナ・ソフィア芸術センターとの貸出交渉に挑む。無慈悲で無差別な殺戮の恐ろしさ、愚かさを描いた「ゲルニカ」を、ピカソが鉛筆一本で描いたその気概を、もう一度このニューヨークで、世界に見せつけるために

「創造主」ピカソ。大戦前のパリに生きた人々の知られざる生き様と、現代のニューヨーク、スペインを股に掛けた手に汗握る交渉が交錯するアートサスペンス! ... 一体どこまでが「史実」で、どこからが「小説」なの? と言いたくなるこの感じ。一枚の絵からこんなお話を作ってしまう想像力! バストセラー『楽園のカンヴァス』から4年、原田マハの新しい代表作です。

「ゲルニカ」を生み出したピカソは勿論のこと、時に情熱的に、時にやるせない思いにさいなまれながらピカソに寄り添う愛人ドラ・マール、**「ゲルニカ」の運命を大きく変えることになる青年パブロ・イグナシオ**。そして現代、アートの力を信じて突き進む瑤子と、とにかく登場人物みなが本当に真。直ぐで... 本を開けば、きっと誰もが、それぞれの思いの強さに感じるものがあるのではないのでしょうか。また、表題の「ゲルニカ」以外にも、ピカソが好んで描いた平和の象徴「鳩」が、印象的に登場します。ラストシーンに「鳩」は出てきませんが、私は本を閉じた後、「鳩」が一斉に飛び立つ様を思い浮かべていました。この物語もまた、舞台となった大戦前、同時多発テロ後から変わらぬ戦争という負の連鎖を断ち切れずにはいる「私たち」へのメッセージでしょう。

「私たちが、**「ゲルニカ」**から目をそらしてはいないか、と。(新潮社、1,728円)



本物の英語力

鳥飼玖美子

誰もが何とか英語を使うことにより、世界中の人たちがコミュニケーションをとることが出来るという時代になって、多くの国で推進されている政策の中核をなすのは英語という国際共通語です。これは必ずしもよいことばかりではなく、英語を生まれながらにして話せるネイティブスピーカーと、英語を話せない人びとの格差を広げる新しいタイプの帝国主義的支配、として批判されてもいますが、そうはいても英語を使えなければ損をする! という訳で、多くの国で第二外国語もしくは外国語としての英語教育に躍起になり、小学校から(場合によってはもっとも前から)英語を学ばせています。勿論日本とて例外ではありません。そうすると、人間を英語力で測ることが当たり前のようになり、英語を話せる人の方がなんだか「偉い」、英語が苦手な人は中身がどんたんに立派であっても尊敬されないどころか就職もままならない、という歪んだ状況が生まれます。この「英語格差」は批判されるべき。しかし一方で、そんな現実世界の中、自ら「英語格差」を縮めるために学ぶことも必要だ、では、どう学ぶか? というのが、この本のテーマ。さて、あなたなら、どう学んでいきますか?

NHK『ニュースで英会話』の監修、講師をつとめる著者が、「英語格差」を乗り越えるための新たな視点を伝授! 発音はハチャメチャと完璧の間を狙う。語彙を増やすためにはとにかく「たくさん読む」。文法が間違っていると「教養がない」と思われるので、異文化理解だと思って賞える... 等。英語が苦手、嫌い、やる気がしない、上達しないと悩んでいる学生から社会人、英語を教える立場の親や教師まで、英語に悩めるすべての人に送る一冊。

こうした「学習法指南」本には、絶対に合う合わないがあるので、(私は)とにかく色々つまみ食いしたらめづつまみ読みをして、自分に合いそうなものだけ捨てていく派です。新年度、「今度こそ英語頑張りよう」と思われている方、沢山いらしゃるのではないかと思います(私もその一人です)。是非こちらの本も手に取ってみてください。(講談社現代新書、864円)

セブン売上Ranking

岡山店
2016.4.10

- 1 天才 石原慎太郎/幻冬舎 1,512円
- 2 暗幕のゲルニカ 原田マハ/新潮社 1,728円
- 3 また、同じ夢を見ていた 住野よる/双葉社 1,512円
- 4 強く、しなやかに 回想・渡辺和子 渡辺和子/山陽新聞社 1,296円
- 5 京都びらい 新書 井上章一/朝日新聞出版 821円
- 6 君の臓腑を食べたい 住野よる/双葉社 1,512円
- 7 語彙カゴが教養である 新書 齋藤孝/角川書店 907円
- 8 幸せになる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え(2) 岸見一郎古賀史健/ダイヤモンド社 1,620円
- 9 やってはいけないウォーキング 新書 青柳幸利/SBクリエイティブ 864円
- 10 田中角栄100の言葉 別冊宝島編集部編/宝島社 1,080円

- 文庫
- 1 高校入試 湊かたえ/角川書店 734円
 - 2 率領 隠蔽捜査 5 今野敏/新潮社 724円
 - 3 ガソリン生活 伊坂幸太郎/朝日新聞出版 842円
 - 4 彩雲国秘抄 骸骨を乞う(上) 雪乃紗衣/角川書店 691円
 - 5 始末 吉原裏同心 24 佐伯泰英/光文社 648円
 - 6 探偵の鑑定 1 松岡圭祐/講談社 670円

瀬戸内国際芸術祭 2016

春の部が終わり、次は7月18日から始まる夏の部へ! この夏の旅行計画は芸術祭を! 「どんなことをやるの?」というあなたへは公式ガイドブックがおすめ。(現代企画室、1,400円)